

歯科衛生学生の社会人基礎力に対する臨床実習の効果 ならびに自己評価・他者評価に関する分析

古賀 恵^{1,2)} 神 光一郎¹⁾ 梶 貢三子¹⁾

¹⁾ 大阪歯科大学大学院医療保健学研究科口腔科学専攻博士課程（後期）

²⁾ 関西女子短期大学歯科衛生学科

Effects of the off-campus clinical practice on the basic abilities for a member of society in the dental hygienist students and analysis of self-evaluation, and others-evaluation

KOGA Megumi^{1,2)}, JIN Koichiro¹⁾, KAJI Kumiko¹⁾

¹⁾ Osaka Dental University Graduate School of Health Sciences Doctor's Course of Oral Sciences

²⁾ Department of Oral Hygiene, Kansai Women's College

抄録：先行研究において，臨床実習前後の歯科衛生学生の社会人基礎力は，3つの能力とも臨床実習後には上昇することを示唆する報告を行った．本研究では，経年的調査と並行して，自己評価の信憑性を検討するために，他者評価を取り入れて検討した．方法は，先行研究と同様の質問紙を用いて，歯科衛生士養成校3校（4年制大学，短期大学，専門学校）の臨床実習を履修する歯科衛生学生を対象に，質問紙調査を行った．うち1校の5か年分の実習前，実習中，実習後をより詳細に検討し，1か年分は，専任教員6名が自己評価と同様の手法で他者評価を行い，自己評価と他者評価の相違を検討した．その結果，いずれの歯科衛生士養成校においても，社会人基礎力の3つの能力は，実習前より実習後に有意に上昇した．3つの能力の中でも前に踏み出す力の平均値が，顕著な上昇を示した．12の能力要素について，実習前後での上昇率をスコア化して検討したところ，3校とも顕著に上昇する能力要素（働きかけ力，ストレスコントロール力，主体性）が，同じ傾向にあった．5か年分の検討では，実習前-実習中に有意な差を示す能力要素と，実習中-実習後に有意な差を示す能力要素があった．自己評価と他者評価の検討では，実習前はチームで働く力のみ，実習中と実習後は全ての能力に有意な差が認められた．臨床実習は社会人基礎力の有機的かつ多面的な育成に有効である可能性が示唆された．

キーワード：歯科衛生学生，社会人基礎力，臨床実習

Abstract : Previously, the authors reported that three basic abilities of members of society shown by dental hygienist students were improved after completion of off-campus clinical practice. In the present study, longitudinal changes of those abilities and the credibility of self-evaluation performed by comparing with others was evaluated. Using the same questionnaire as in previous studies, surveys of students undergoing off-campus clinical practice at three different dental hygienist training schools (four-year university, junior college, vocational school) were conducted. Among those, subjects from one of the schools were evaluated for a total of five years by six full-time faculty members using the same method as for the one-year self-evaluation analysis. Students at all of the schools had significant increases in the three basic abilities considered necessary for a member of society after completing off-campus clinical practice. Of the three abilities examined, the average value for making advancement showed a remarkable increase. Additionally, the rates of increase before and after off-campus clinical practice for 12 ability elements were examined. Ability to act and control stress, and also initiative were each found to be remarkably increased in students at all three schools. In the five-year study, some ability elements showed significant differences between before and during off-campus clinical practice, while evaluation by others showed significant differences following completion of off-campus clinical practice. In comparisons of the self- and others-evaluation, ability to work as a team member before clinical practice was significantly increased, while all examined abilities showed significant improvements during and after clinical practice. These results suggest that off-campus clinical practice for dental hygienists is an effective

tive method for natural and multifaceted development of basic abilities for developing skills as a member of society.

Key words : dental hygienist students, the basic abilities for a member of society, the off-campus clinical practice

緒 言

今後、歯科衛生士に期待される役割やニーズは、これまで以上に大きくなる。厚生労働省が進めている歯科医療提供体制等に関する検討会では、地域包括ケアシステムにおける歯科保健医療の充実を図るための議論がなされ、医科・歯科・介護の連携が必要とされている¹⁾。さらに国が示した経済財政運営と改革の基本方針（骨太の方針）2022では、歯科に関わる実践的対応として「生涯を通じた歯科健診（いわゆる国民皆歯科健診）の具体的な検討を始めとして、オーラルフレイル対策・疾病の重症化予防につながる歯科専門職による口腔健康管理の充実、歯科医療職間・医科歯科連携を始めとする関係職種間・関係機関間の連携、歯科衛生士・歯科技工士の人材確保、歯科技工を含む歯科領域におけるICTの活用、の推進、歯科保健医療提供体制の構築と強化」についてまとめられている²⁾。歯科衛生士は国民の健康維持増進に寄与する職種として、知識・技術のみならず、多様な人々と仕事を行い連携することが、社会的にも求められていることから、歯科衛生教育に社会人基礎力の概念を導入する必要性が高いと言える。

経済産業省は2006年に、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要となる基礎的な力」として社会人基礎力を提唱した³⁾。その後2018年には「人生100年時代の社会人基礎力」として新たに定義され、各業界の特性に応じた能力をアップデートするための基盤となる社会人としての共通能力として位置付けられた⁴⁾。さらに個人の能力を発揮するにあたっては、自己を認識して、リフレクション（振り返り）しながら、どう活躍するか（目的）、何を学ぶか（学び）、どのように学ぶか（統合）、の3つの視点を意識し、バランスよく社会人基礎力を高めることが重要であると考えられている⁴⁾。この社会人基礎力は医療保健分野だけでなく、社会科学分野、理工学分野などさまざまな分野で重要視されており、教育機関や企業・組織で応用されている⁵⁾。また日本だけでなく、海外においても欧米諸国でジェネリックスキル（汎用的能力・態度）の概念が早くから採用され、専門教育と並行してジェネリックスキルの育成が実践されている⁶⁾。

したがって、歯科衛生学生の社会人基礎力の特性を理解し、歯科衛生士として社会から求められる能力の向上

に繋がるカリキュラムを歯科衛生教育に応用することができれば、多職種連携による地域完結型の歯科保健医療の提供など、国民のニーズに対応できる歯科衛生士の養成が可能になると考えられる。しかし、歯科衛生教育の場面に社会人基礎力の概念が取り入れられているとは、現状では言い難い状況である。

筆者らはこれまでに、臨床実習前後の歯科衛生学生の社会人基礎力について経年的に質問紙調査を行い、「前に踏み出す力（アクション）」、「考え抜く力（シンキング）」、「チームで働く力（チームワーク）」の3つの能力とも臨床実習後には上昇する可能性を示唆する報告を行ってきた^{7,8)}。この先行研究は限られた歯科衛生士養成校における調査であったために、調査結果が対象校の特性に大きく影響されていた可能性が考えられる。そこで、本研究は対象となる歯科衛生士養成校を4年制大学、短期大学、専門学校として調査し、歯科衛生学生の社会人基礎力に関する特性を捉えるとともに、自己評価の信憑性を検討することを目的として他者評価を取り入れ、歯科衛生学生の社会人基礎力に対する臨床実習の効果について詳細に検討した。

対象と方法

社会人基礎力は、3つの能力と12の能力要素から把握できることが明らかにされている（図1³⁾）。本研究は、先行研究を基にさらに詳細かつ経年的動向について調査することを目的としているため、調査方法は先行研究に準じた^{7,8)}。さらに自己評価を客観的に検討することを目的として、5年間調査を実施した。

1. 歯科衛生士養成校3校の比較検討

調査対象は、歯科衛生士養成校3校〔A校（4年制大学）、B校（短期大学）、C校（専門学校）〕の臨床実習を履修する歯科衛生学生で、調査協力の同意が得られ、実習前後における調査に全て回答した725名〔A校：3, 4年生91名（2020～2021年度2か年）、B校：3年生496名（2017～2021年度5か年）、C校：2, 3年生138名（2019～2021年度3か年）〕とした。

調査時期は、各年度の各養成校の臨床実習直前（以下実習前）と臨床実習途中（以下実習中）、さらに臨床実習直後（以下実習後）の3回実施した（図2）。質問紙は対象学生に対して一斉に配付し、回答後は速やかに回

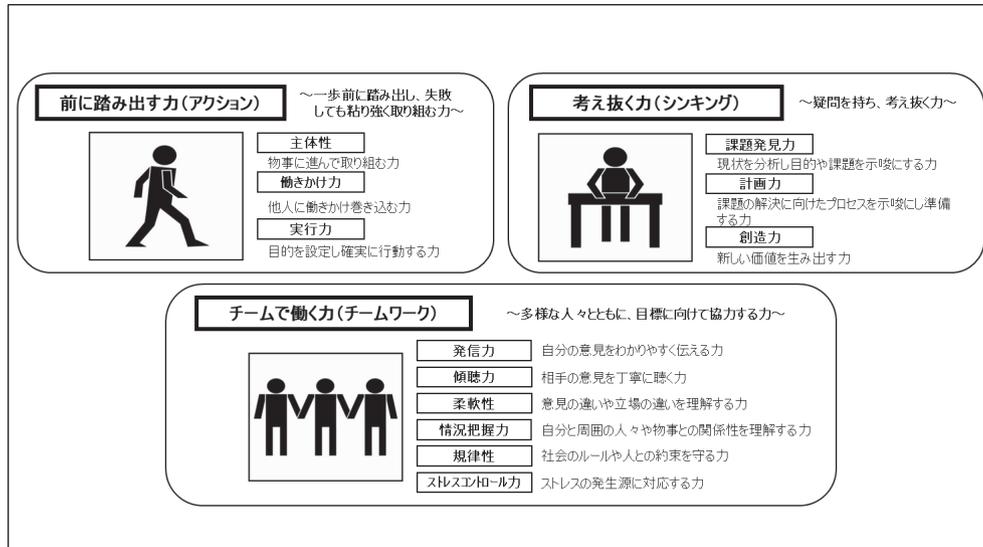


図1 社会人基礎力：3つの能力と12の能力要素³⁾

収した。

調査用紙は、経済産業省の社会人基礎力自己分析シート³⁾ならびに評価基準(発揮度)を基に、12の能力要素に分けた自己記入式質問紙を作成し、松谷ら⁹⁾の方法に準じて学生本人の自己評価による自己記入式質問紙調査を行った。本研究では能力要素12項目について、「1：期待される能力・行動が全く発揮されず大いに問題があった(発揮度(求められる能力が発揮できたか)0%)」、「2：期待される能力・行動が部分的にしか発揮されず、やや問題があった(発揮度40%程度)」、「3：期待される能力・行動が概ね発揮されていて問題がなかった(発揮度60～70%)」、「4：期待される能力・行動がほとんど申し分なく発揮されていた(発揮度90%程度)」、「5：期待される能力・行動の発揮度が抜群であり、模範となる(発揮度100%)」の5段階の評価基準に沿って回答を得た。なお、臨床実習直前は調査のベースラインとなるため、各能力と能力要素の表現内容を実習前に則したものとした。

さらに12の能力要素の上昇傾向を比較検討するために、年度ごとに12の能力要素の上昇率に応じてスコア化を行った。上昇率が最も高かったものを12点、最も低かったものには1点とそれぞれ順に配点し、能力要素ごとに平均値を算出して、養成校別に順位付けを行った。

2. B校における実習前、実習中および実習後の比較検討

実習期間を通じてどの時期に、社会人基礎力が変化するのかを明らかにするため、B校の5か年分の調査を実習前、実習中および実習後で検討した。

3. B校における自己評価と他者評価の比較検討

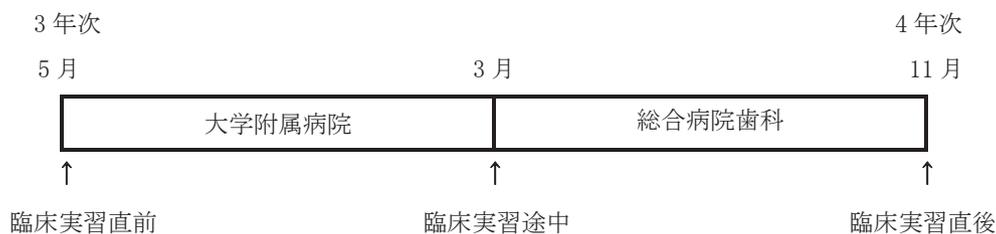
2021年度にB校(1か年、91名)を対象として、学生による自己評価を行った。併せて同時期に、専任教員6名の中から1名を他者評価者に設定し、同様の質問紙と評価方法で他者評価を実施した。評価を担当した専任教員は、臨床実習の巡回指導や学校登校日の学生指導を担当する教員とした。教員間で評価に相違が生じないように、本研究の主旨と社会人基礎力の概念および調査方法を事前に説明し、評価基準についてキャリアレーションを実施した後、他者評価を実施した。

4. 倫理的配慮

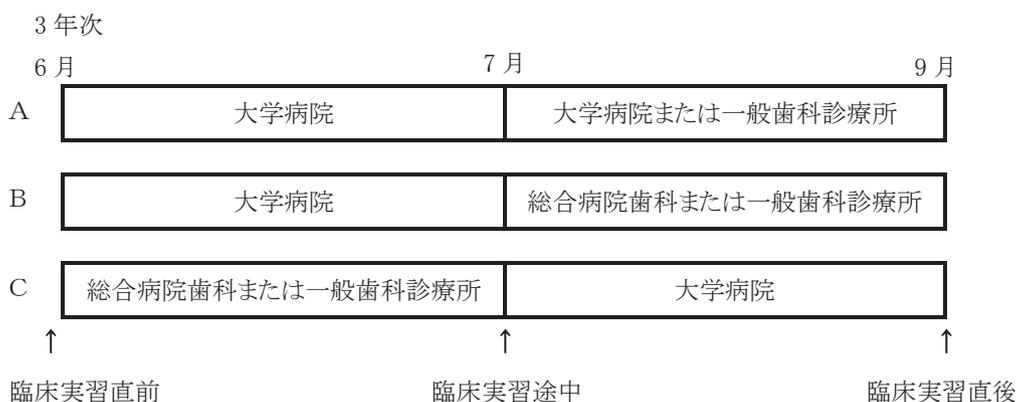
調査対象者には事前に本研究の目的、方法、調査への協力は個人の自由意志に基づくこと、成績評価には関係しないこと、個人的なデータとしては使用しないことについて説明し、質問紙を配付した。本研究では質問紙の提出をもって同意が得られたものとみなした。なお、本研究は関西福祉科学大学倫理委員会の承認を得て実施した(承認番号18-21)。

5. 分析方法

各養成校の臨床実習は、養成校によって臨床実習の内容や実習期間、実習先機関(大学附属病院や総合病院歯科あるいは一般歯科診療所)が異なるため、松谷ら⁹⁾、藤島らの報告¹⁰⁾と同様に、臨床実習前後の結果を、年度ごとに比較検討した。歯科衛生士養成校3校における臨床実習前後での3つの能力および12の能力要素の差については、Wilcoxonの符号付き順位検定を、B校の実習前、実習中および実習後での能力要素の差については、Friedman検定を、B校の自己評価と他者評価との



2-1 A校(4年制大学)の臨床実習期間と調査時期



A: 大学病院で4~12週間実習(年度により変更あり). 残りの期間は一般歯科診療所で実習を行う
 B: 大学病院で6週間実習後(7科), 総合病院歯科または一般歯科診療所で6週間実習を行う
 C: 総合病院歯科または一般歯科診療所で6週間実習後, 大学病院で6週間実習を行う(7科)

2-2 B校(短期大学)の臨床実習期間と調査時期



2-3 C校(専門学校)の臨床実習期間と調査時期

図2 各養成校の臨床実習期間と調査時期

比較検討については Wilcoxon の符号付き順位検定および χ^2 乗検定で検討した. 統計解析は SPSS (Statistics 28) を用いた. 有意水準は 5%未満とした.

結 果

1. 有効回答率

調査対象者 794 名のうち, 調査協力の同意が得られ, 実習前後における調査に全て回答した学生 725 名 (A 校 91 名, B 校 496 名, C 校 138 名) を調査対象とした. 有効回答率は 91.3%であった.

2. 歯科衛生士養成校 3 校における 3 つの能力の比較検討

1) A 校における臨床実習前後の社会人基礎力 3 つの能力 (図 3)

A 校において臨床実習前後の社会人基礎力の 3 つの能力を比較検討した結果, 「前に踏み出す力」の 2020 年度は 2.87 から 3.86 へ, 2021 年度は 2.70 から 3.55 へそれぞれ有意に上昇したことが確認された ($p < 0.05$).

「考え抜く力」の 2020 年度は 2.75 から 3.53 へ, 2021 年度は 2.75 から 3.32 へそれぞれ有意に上昇したことが確認された. また年度に関わらず, 実習後の「考え抜く力」値は「前に踏み出す力」, 「チームで働く力」よりも低い傾向にあることが確認された ($p < 0.05$).

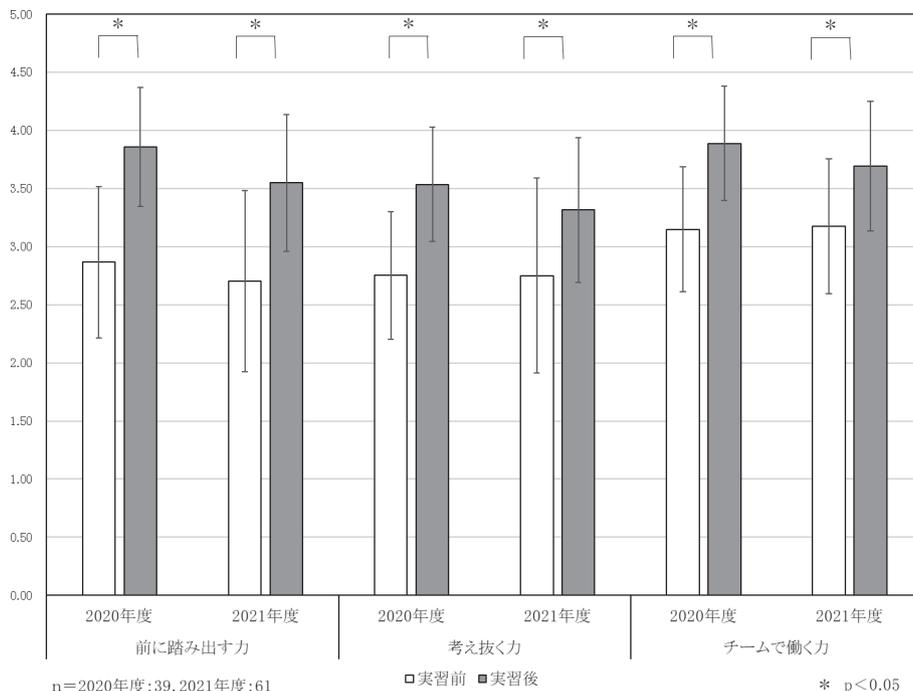


図3 A校における臨床実習前後の社会人基礎力3つの能力

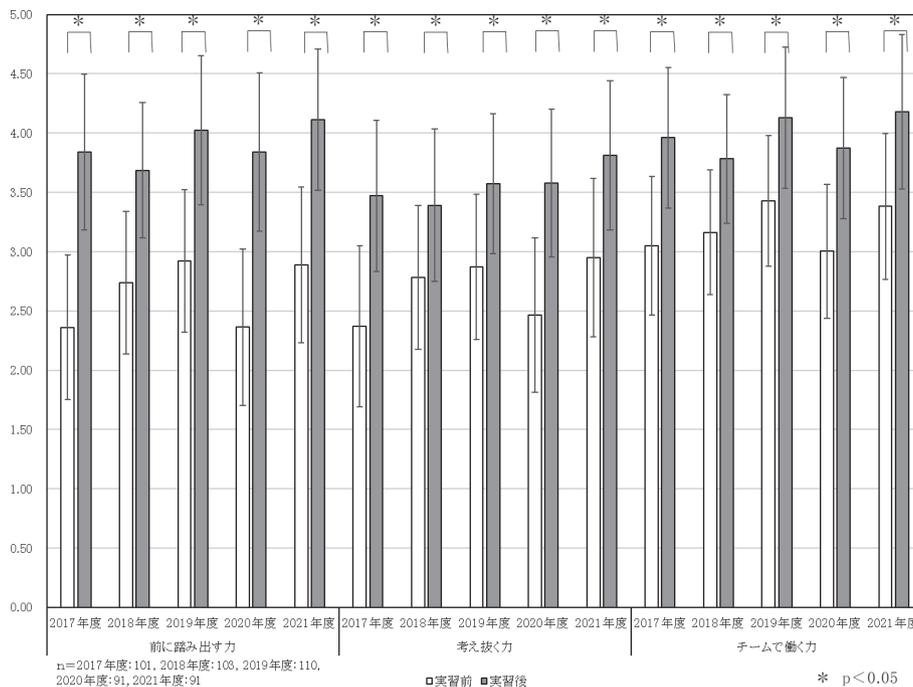


図4 B校における臨床実習前後の社会人基礎力3つの能力

「チームで働く力」の2020年度は3.15から3.89へ、2021年度は3.18から3.69へそれぞれ有意に上昇したことが確認された (p<0.05)。

2) B校における臨床実習前後の社会人基礎力3つの能力 (図4)

B校において臨床実習前後の社会人基礎力の3つの能

力を比較検討した結果、「前に踏み出す力」の2017年度は2.36から3.84へ、2018年度は2.74から3.69へ、2019年度は2.92から4.02へ、2020年度は2.36から3.84へ、2021年度は2.89から4.11へ、それぞれ有意に上昇したことが確認された (p<0.05)。

「考え抜く力」の2017年度は2.37から3.47へ、2018

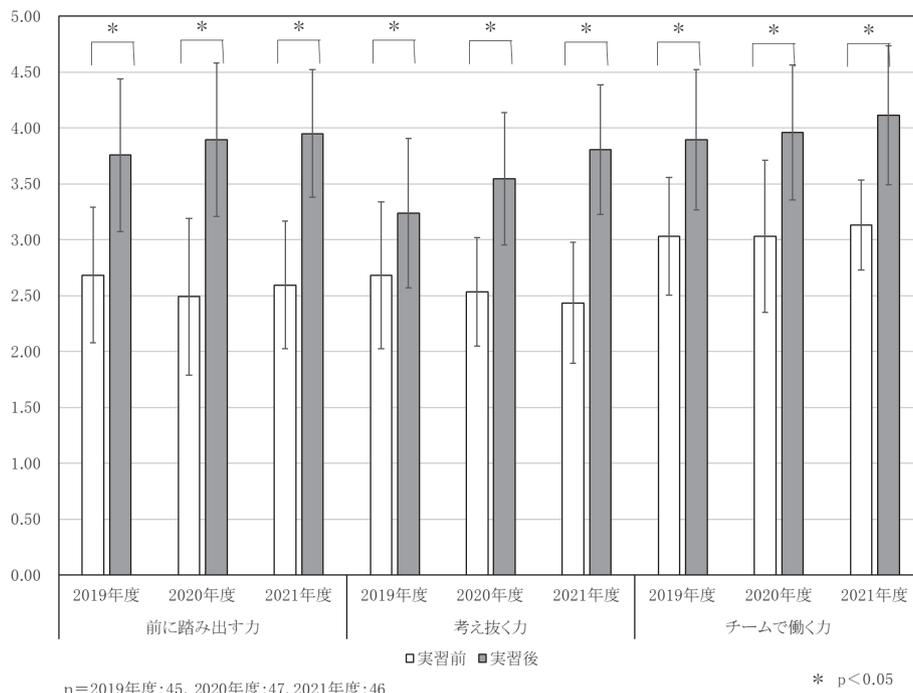


図5 C校における臨床実習前後の社会人基礎力3つの能力

年度は2.78から3.39へ、2019年度は2.87から3.57へ、2020年度は2.47から3.58へ、2021年度は2.95から3.81へそれぞれ有意に上昇したことが確認された (p<0.05)。また年度に関わらず、実習後の「考え抜く力」値は「前に踏み出す力」, 「チームで働く力」よりも低い傾向にあることが確認された。

「チームで働く力」の2017年度は3.05から3.96へ、2018年度は3.16から3.78へ、2019年度は3.43から4.13へ、2020年度は3.00から3.87へ、2021年度は3.38から4.18へそれぞれ有意に上昇したことが確認された (p<0.05)。

3) C校における臨床実習前後の社会人基礎力3つの能力 (図5)

C校において臨床実習前後の社会人基礎力の3つの能力を比較検討した結果、「前に踏み出す力」の2019年度は2.68から3.76へ、2020年度は2.49から3.89へ、2021年度は2.59から3.95へそれぞれ有意に上昇したことが確認された (p<0.05)。

「考え抜く力」の2019年度は2.68から3.24へ、2020年度は2.53から3.55へ、2021年度は2.43から3.80へそれぞれ有意に上昇したことが確認された (p<0.05)。また年度に関わらず、実習後の「考え抜く力」値は「前に踏み出す力」, 「チームで働く力」よりも低い傾向にあることが確認された。

「チームで働く力」の2019年度は3.03から3.89へ、2020年度は3.03から3.96へ、2021年度は3.13から

4.11へそれぞれ有意に上昇したことが確認された (p<0.05)。

4) 歯科衛生士養成校3校における臨床実習前後の社会人基礎力3つの能力

歯科衛生士養成校3校において、社会人基礎力の3つの能力を臨床実習前後で比較検討した結果、すべての年度でいずれの養成校においても、実習後で有意に上昇した (図3~5) (p<0.05)。一方で実習後の「考え抜く力」値は、「前に踏み出す力」, 「チームで働く力」と比較して低い傾向にあることが確認された。

3. 歯科衛生士養成校3校における社会人基礎力12の能力要素の比較検討

1) 臨床実習前後の社会人基礎力12の能力要素

社会人基礎力の12の能力要素について、実習前後で比較検討した結果、A校では2020年度はすべての能力要素が、2021年度は「規律性」以外の能力要素において、実習前と比較して実習後で有意に上昇した (表1) (p<0.05)。

B校では、すべての年度において実習前と比較して実習後で有意に上昇した (表2) (p<0.05)。

C校では2019年度は創造力以外の能力要素が、2020~2021年度は全ての能力要素において、実習前と比較して実習後で有意に上昇した (表3) (p<0.05)。

2) 12の能力要素のスコア化

12の能力要素について、実習前後での上昇率が最も

表1 A校における臨床実習前後の社会人基礎力12の能力要素

	2020年度			2021年度		
	実習前	実習後	p値	実習前	実習後	p値
	平均±SD	平均±SD		平均±SD	平均±SD	
前に踏み出す力	2.87±0.65	3.86±0.51	0.000*	2.70±0.78	3.55±0.59	0.000*
主体性	3.06±0.75	3.84±0.82	0.000*	2.89±0.92	3.64±0.67	0.000*
働きかけ力	2.63±0.93	3.89±0.85	0.000*	2.45±0.84	3.61±0.75	0.000*
実行力	2.91±0.81	3.53±0.78	0.000*	2.77±0.93	3.39±0.70	0.000*
考え抜く力	2.75±0.55	3.53±0.49	0.000*	2.75±0.84	3.32±0.62	0.000*
課題発見力	3.03±0.77	3.51±0.69	0.001*	2.80±0.97	3.41±0.77	0.000*
計画力	2.69±0.71	3.40±0.88	0.000*	2.66±0.97	3.34±0.66	0.000*
創造力	2.54±0.77	2.80±0.75	0.001*	2.79±1.06	3.20±0.69	0.015*
チームで働く力	3.15±0.54	3.89±0.49	0.000*	3.18±0.58	3.69±0.56	0.000*
発信力	2.77±0.83	3.51±0.83	0.000*	2.55±0.78	3.32±0.71	0.000*
傾聴力	3.34±0.79	4.00±0.73	0.001*	3.36±0.91	3.96±0.78	0.000*
柔軟性	3.31±0.75	3.93±0.85	0.001*	3.39±0.82	3.73±0.74	0.016*
状況把握力	3.29±0.78	3.82±0.85	0.001*	3.25±0.83	3.71±0.62	0.001*
規律性	3.63±0.76	4.09±0.69	0.007*	3.77±0.78	3.91±0.74	0.224
ストレスコントロール力	2.54±1.10	4.00±0.94	0.000*	2.73±1.06	3.50±0.73	0.000*

n=2020年度:39, 2021年度:61

* p<0.05

高かったものを12、最も低かったものには1とそれぞれ順に配点し、能力要素ごとに平均値を算出し、スコア化して比較検討した。その結果、3校とも顕著に上昇した能力要素（主体性、働きかけ力、ストレスコントロール力）と、上昇率が低い傾向にある能力要素（傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性）が同じ傾向にあった（表4）。

4. B校における社会人基礎力3つの能力と12の能力要素の実習前、実習中および実習後の比較検討（表5）

B校（5か年分）のデータについて実習前、実習中および実習後で3つの能力を比較検討した結果、すべての年度において実習前-実習中に有意な上昇が認められた（p<0.05）。実習中-実習後は2018年度の3つの能力、2017年度の前に踏み出す力に有意な差が認められなかった（p<0.05）。

12の能力要素ごとに比較検討した結果、年度によって上昇傾向に差異が認められた。すべての年度において

実習前-実習中には「主体性、働きかけ力、実行力、課題発見力、計画力、創造力、発信力、規律性、ストレスコントロール力」に有意な上昇が認められ、実習中-実習後には「柔軟性」に有意な上昇が認められた（p<0.05）。

5. B校における臨床実習前後の社会人基礎力3つの能力に関する自己評価と他者評価の比較検討

B校（1か年分）の臨床実習前後の3つの能力に関する自己評価と他者評価を比較検討した結果、実習前は「チームで働く力」のみ、実習中と実習後は全ての能力に有意な差が認められた（表6）（p<0.05）。

能力要素ごとに比較してみると、実習前は「傾聴力」、「柔軟性」、「状況把握力」、「規律性」、「ストレスコントロール力」の能力要素においては有意な差が認められた（表6）（p<0.05）。実習中と実習後にはすべての能力要素において有意な差が認められた（表6）（p<0.05）。

実習前-実習後の学生による自己評価と専任教員によ

表2 B校における臨床実習前後の社会人基礎力12の能力要素

	2017年度			2018年度			2019年度			2020年度			2021年度		
	実習前		実習後												
	平均±SD	平均±SD	p値												
前に踏み出す力	2.36±0.61	3.84±0.66	0.000*	2.74±0.60	3.69±0.57	0.000*	2.92±0.60	4.02±0.63	0.000*	2.36±0.66	3.84±0.67	0.000*	2.89±0.66	4.11±0.60	0.000*
主体性	2.48±0.75	4.00±0.77	0.000*	2.83±0.74	3.85±0.63	0.000*	3.04±0.74	4.15±0.74	0.000*	2.45±0.72	3.92±0.80	0.000*	3.08±0.77	4.24±0.67	0.000*
働きかけ力	2.22±0.77	3.90±0.86	0.000*	2.51±0.83	3.64±0.77	0.000*	2.81±0.79	4.19±0.81	0.000*	2.16±0.83	3.88±0.82	0.000*	2.68±0.89	4.16±0.76	0.000*
実行力	2.40±0.87	3.62±0.73	0.000*	2.87±0.73	3.56±0.73	0.000*	2.92±0.79	3.73±0.72	0.000*	2.47±0.86	3.71±0.80	0.000*	2.91±0.85	3.93±0.72	0.000*
考え抜く力	2.37±0.68	3.47±0.64	0.000*	2.78±0.61	3.39±0.64	0.000*	2.87±0.61	3.57±0.59	0.000*	2.47±0.65	3.58±0.62	0.000*	2.95±0.67	3.81±0.63	0.000*
課題発見力	2.51±0.90	3.58±0.77	0.000*	2.82±0.73	3.58±0.70	0.000*	3.02±0.83	3.72±0.74	0.000*	2.64±0.81	3.63±0.72	0.000*	3.05±0.82	3.99±0.73	0.000*
計画力	2.47±0.80	3.57±0.75	0.000*	2.83±0.86	3.45±0.69	0.000*	2.99±0.84	3.70±0.69	0.000*	2.43±0.79	3.64±0.73	0.000*	3.04±0.84	3.87±0.74	0.000*
創造力	2.12±0.81	3.25±0.74	0.000*	2.70±0.76	3.15±0.82	0.000*	2.59±0.74	3.30±0.72	0.000*	2.33±0.98	3.47±0.80	0.000*	2.75±0.87	3.58±0.76	0.000*
チームで働く力	3.05±0.58	3.96±0.59	0.000*	3.16±0.53	3.78±0.54	0.000*	3.43±0.55	4.13±0.60	0.000*	3.00±0.56	3.87±0.60	0.000*	3.38±0.62	4.18±0.65	0.000*
発信力	2.43±0.84	3.69±0.91	0.000*	2.74±0.89	3.58±0.65	0.000*	2.90±0.80	3.91±0.83	0.000*	2.46±0.82	3.48±0.88	0.000*	2.85±0.81	3.90±0.85	0.000*
傾聴力	3.27±0.84	3.92±0.77	0.000*	3.34±0.73	3.82±0.75	0.000*	3.69±0.67	4.08±0.82	0.000*	3.26±0.84	3.93±0.78	0.000*	3.74±0.85	4.25±0.78	0.000*
柔軟性	3.37±0.85	3.84±0.74	0.000*	3.35±0.78	3.76±0.74	0.000*	3.65±0.78	4.09±0.78	0.000*	3.40±0.88	3.92±0.77	0.000*	3.60±0.78	4.21±0.72	0.000*
状況把握力	3.10±0.74	3.87±0.68	0.000*	3.29±0.63	3.73±0.71	0.000*	3.55±0.82	4.05±0.78	0.000*	2.98±0.88	3.87±0.67	0.000*	3.44±0.84	4.13±0.79	0.000*
規律性	3.50±0.82	4.31±0.79	0.000*	3.59±0.86	4.10±0.77	0.000*	3.92±0.84	4.44±0.73	0.000*	3.36±0.81	4.09±0.77	0.000*	3.91±0.81	4.42±0.77	0.000*
ストレスコントロール力	2.62±1.13	4.15±0.84	0.000*	2.67±0.89	3.72±0.83	0.000*	2.90±1.10	4.20±0.91	0.000*	2.56±0.92	3.95±0.87	0.000*	2.76±1.02	4.18±0.87	0.000*

n=2017年度:101, 2018年度:103, 2019年度:110
2020年度:91, 2021年度:91

* p<0.05

表3 C校における臨床実習前後の社会人基礎力12の能力要素

	2019年度			2020年度			2021年度		
	実習前		実習後	実習前		実習後	実習前		実習後
	平均±SD	平均±SD	p値	平均±SD	平均±SD	p値	平均±SD	平均±SD	p値
前に踏み出す力	2.68±0.61	3.76±0.68	0.000*	2.49±0.70	3.89±0.69	0.000*	2.59±0.57	3.95±0.57	0.000*
主体性	2.87±0.75	3.84±0.82	0.000*	2.60±0.84	3.85±0.63	0.000*	2.59±0.68	4.04±0.69	0.000*
働きかけ力	2.44±0.75	3.89±0.85	0.000*	2.49±0.94	3.64±0.77	0.000*	2.43±0.85	4.00±0.69	0.000*
実行力	2.73±0.88	3.53±0.78	0.000*	2.38±0.86	3.56±0.73	0.000*	2.76±0.79	3.80±0.61	0.000*
考え抜く力	2.68±0.66	3.24±0.67	0.000*	2.53±0.48	3.55±0.59	0.000*	2.43±0.54	3.80±0.58	0.000*
課題発見力	2.78±0.76	3.51±0.69	0.000*	2.47±0.68	3.58±0.70	0.000*	2.54±0.71	3.89±0.70	0.000*
計画力	2.67±0.84	3.40±0.88	0.001*	2.66±0.81	3.45±0.69	0.000*	2.54±0.77	3.93±0.73	0.000*
創造力	2.60±0.85	2.80±0.75	0.092	2.47±0.79	3.15±0.82	0.000*	2.22±0.66	3.59±0.65	0.000*
チームで働く力	3.03±0.53	3.89±0.63	0.000*	3.03±0.68	3.96±0.60	0.000*	3.13±0.40	4.11±0.62	0.000*
発信力	2.40±0.85	3.51±0.83	0.000*	2.62±0.89	3.58±0.65	0.000*	2.72±0.68	3.96±0.69	0.000*
傾聴力	3.36±0.87	4.00±0.73	0.000*	3.19±1.02	3.82±0.75	0.000*	3.33±0.55	4.13±0.71	0.000*
柔軟性	3.18±0.88	3.93±0.85	0.000*	3.26±0.84	3.76±0.74	0.000*	3.28±0.71	4.09±0.72	0.000*
状況把握力	2.98±0.77	3.82±0.85	0.000*	3.04±0.92	3.73±0.71	0.000*	3.11±0.67	4.07±0.73	0.000*
規律性	3.58±0.71	4.09±0.69	0.002*	3.47±0.94	4.10±0.77	0.000*	3.65±0.63	4.37±0.79	0.000*
ストレスコントロール力	2.69±0.94	4.00±0.94	0.000*	2.62±1.04	3.72±0.83	0.000*	2.70±0.80	4.07±0.79	0.000*

n=2019年度:45, 2020年度:47, 2021年度:46

* p<0.05

表4 歯科衛生士養成校3校における12の能力要素のスコア化

	A校		B校		C校	
	能力要素	スコア値	能力要素	スコア値	能力要素	スコア値
1位	働きかけ力 ストレス コントロール力	11.50	働きかけ力	12.00	働きかけ力	11.33
2位	—	—	ストレス コントロール力	10.80	主体性	10.67
3位	主体性 発信力	9.50	主体性	10.40	ストレス コントロール力	10.33
10位	柔軟性 情況把握力	3.00	情況把握力	3.20	柔軟性	3.00
11位	—	—	傾聴力	2.20	傾聴力	2.67
12位	規律性	1.00	柔軟性	1.60	規律性	2.00

表5 B校における社会人基礎力3つの能力と12の能力要素の実習前、実習中および実習後の比較

	2017年度			2018年度			2019年度			2020年度			2021年度		
	前-中	前-後	中-後	前-中	前-後	中-後	前-中	前-後	中-後	前-中	前-後	中-後	前-中	前-後	中-後
前に踏み出す力	0.000*	0.000*	0.000*	0.000*	0.000*	1.000	0.000*	0.000*	0.936	0.000*	0.000*	0.018*	0.000*	0.000*	0.003*
主体性	0.000*	0.000*	0.159	0.000*	0.000*	0.227	0.000*	0.000*	0.028*	0.000*	0.000*	0.035*	0.000*	0.000*	0.018*
働きかけ力	0.000*	0.000*	0.009*	0.000*	0.000*	1.000	0.000*	0.000*	0.222	0.000*	0.000*	1.000	0.000*	0.000*	0.265
実行力	0.000*	0.000*	0.000*	0.000*	0.000*	0.523	0.003*	0.000*	0.003*	0.000*	0.000*	0.008*	0.000*	0.000*	0.059
考え抜く力	0.000*	0.000*	0.000*	0.000*	0.000*	0.210	0.000*	0.000*	0.000*	0.000*	0.000*	0.015*	0.000*	0.000*	0.007*
課題発見力	0.000*	0.000*	0.020*	0.000*	0.000*	0.110	0.038*	0.000*	0.003*	0.000*	0.000*	0.176	0.000*	0.000*	0.043*
計画力	0.000*	0.000*	0.037*	0.001*	0.000*	0.557	0.019*	0.000*	0.003*	0.000*	0.000*	0.032*	0.000*	0.000*	0.125
創造力	0.000*	0.000*	0.034*	0.010*	0.000*	0.888	0.031*	0.000*	0.001*	0.000*	0.000*	0.015*	0.000*	0.000*	0.086
チームで働く力	0.000*	0.000*	0.000*	0.000*	0.000*	0.064	0.005*	0.000*	0.000*	0.000*	0.000*	0.004*	0.000*	0.000*	0.004*
発信力	0.000*	0.000*	0.009*	0.000*	0.000*	0.523	0.000*	0.000*	0.007*	0.000*	0.000*	0.546	0.000*	0.000*	0.333
傾聴力	0.114	0.000*	0.005*	0.003*	0.000*	1.000	1.000	0.001*	0.012*	0.032*	0.000*	0.136	0.511	0.002*	0.125
柔軟性	1.000	0.001*	0.002*	0.036*	0.004*	1.000	1.000	0.000*	0.000*	1.000	0.000*	0.012*	0.065	0.000*	0.026*
情況把握力	0.009*	0.000*	0.002*	0.020*	0.000*	0.751	1.000	0.000*	0.000*	0.005*	0.000*	0.002*	0.007*	0.000*	0.071
規律性	0.000*	0.000*	0.202	0.003*	0.000*	0.795	0.031*	0.000*	0.239	0.000*	0.000*	1.000	0.010*	0.000*	0.623
ストレスコントロール力	0.000*	0.000*	0.041*	0.000*	0.000*	0.166	0.000*	0.000*	0.034*	0.000*	0.000*	0.114	0.000*	0.000*	0.078

n=2017年度:101, 2018年度:103, 2019年度:110
2020年度:91, 2021年度:91

* p<0.05

る他者評価の結果の相違について、より詳細に検討するために、それぞれの平均を基準として、平均より高い群と低い群に分け、実習前-実習後で自己評価と他者評価群がどのように変化するかを検討した(図6)。その結果、「前に踏み出す力」と「考え抜く力」は、すべての群間において有意な差は認められなかった(p<0.05)。「前に踏み出す力」は実習前については①群が、実習後は④群が多くなる傾向が見られた(表7)。「考え抜く力」は実習前後ともに①群が多くなる傾向が見られた(表8)。「チームで働く力」は実習前については③群が、実習後は①群が多くなる傾向が見られた。さらに実習前に自己評価が高い①と②群は、実習後も自己評価が高い傾

向が見られた(表9)。

考 察

3つの能力別では、「前に踏み出す力」の上昇傾向が高かったことから、臨床実習は「前に踏み出す力」の育成に有効であることが推察された。実習後の平均値で検討すると、「チームで働く力」が高い傾向を示した。すべての能力に上昇傾向があったものの、年度によってそれぞれの能力の上昇の仕方にばらつきがあることが確認された。「考え抜く力」は、「前に踏み出す力」や「チームで働く力」と比較して、上昇率や平均値いずれにおい

表6 B校における臨床実習前後の社会人基礎力3つの能力と12の能力要素に関する自己評価と他者評価の比較

	実習前			実習中			実習後		
	自己	他者	p値	自己	他者	p値	自己	他者	p値
	平均±SD	平均±SD		平均±SD	平均±SD		平均±SD	平均±SD	
前に踏み出す力	2.89±0.66	2.82±0.70	0.515	3.83±0.64	3.12±0.79	0.000*	4.11±0.60	3.27±0.81	0.000*
主体性	3.10±0.77	2.89±0.80	0.083	3.91±0.72	3.25±0.91	0.000*	4.24±0.67	3.38±0.97	0.000*
働きかけ力	2.71±0.89	2.70±0.78	0.747	3.97±0.92	2.99±0.82	0.000*	4.17±0.76	3.21±0.86	0.000*
実行力	2.93±0.85	2.87±0.77	0.654	3.62±0.72	3.11±0.83	0.000*	3.95±0.72	3.23±0.83	0.000*
考え抜く力	2.95±0.67	2.79±0.63	0.072	3.52±0.63	3.03±0.74	0.000*	3.81±0.63	3.14±0.75	0.000*
課題発見力	3.07±0.82	2.89±0.76	0.096	3.72±0.73	3.07±0.78	0.000*	4.00±0.73	3.21±0.82	0.000*
計画力	3.07±0.84	2.92±0.73	0.215	3.63±0.78	3.03±0.82	0.000*	3.88±0.74	3.18±0.82	0.000*
創造力	2.76±0.87	2.57±0.65	0.140	3.26±0.78	3.00±0.77	0.015*	3.59±0.76	3.02±0.78	0.000*
チームで働く力	3.38±0.62	3.02±0.53	0.000*	3.92±0.68	3.21±0.59	0.000*	4.18±0.65	3.38±0.70	0.000*
発信力	2.87±0.81	2.78±0.81	0.637	3.67±0.89	2.97±0.78	0.000*	3.91±0.85	3.27±0.84	0.000*
傾聴力	3.75±0.85	3.08±0.68	0.000*	4.02±0.83	3.22±0.68	0.000*	4.26±0.78	3.42±0.98	0.000*
柔軟性	3.62±0.78	3.08±0.62	0.000*	3.92±0.85	3.13±0.76	0.000*	4.22±0.72	3.42±0.85	0.000*
状況把握力	3.46±0.84	2.93±0.57	0.000*	3.87±0.86	3.20±0.71	0.000*	4.14±0.79	3.18±0.75	0.000*
規律性	3.92±0.81	3.19±0.78	0.000*	4.27±0.85	3.36±0.70	0.000*	4.42±0.77	3.59±0.80	0.000*
ストレスコントロール力	2.78±1.02	3.04±0.71	0.021*	3.79±0.98	3.37±0.64	0.000*	4.18±0.87	3.40±0.75	0.000*

n=91 * p<0.05

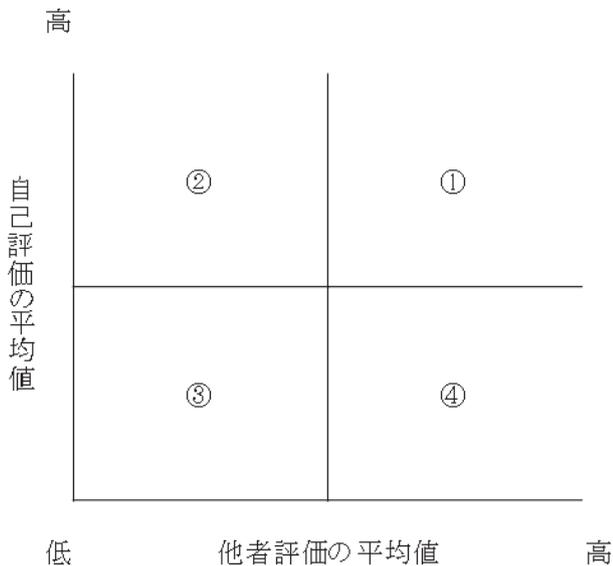


図6 自己評価と他者評価の群分け

①と③群は自己評価と他者評価が一致している傾向を示す。つまり自己を客観的に評価、認識できている可能性があるといえる。

でも低い傾向にあった。これは3校すべての養成校に同じ傾向が見られることから、「考え抜く力」は、臨床実習だけでは上昇しにくい可能性が考えられた。市川らや、藪田らの看護学生を対象とした研究でも「考え抜く

力」が低い傾向にあると報告されており^{11,12)}、「考え抜く力」の上昇には積極的な教育支援・介入が必要であると考えられる。一方奥田らは、社会人基礎力は学生生活のさまざまな場面や活動を通じて高まる可能性があることを報告している¹³⁾。臨床実習では社会人基礎力の十分な上昇が確認されなかったとしても、臨床実習以外の教育活動や学生生活のさまざまな場面を通して補完できている可能性があるとして推察される。

能力要素ごとの実習前後での比較検討においては、3校ともほとんどの能力要素で実習後に有意な上昇をした。上昇の傾向を経年的に捉えるためにスコア化をして検討したところ、上昇しやすい能力要素と、そうでない能力要素に分別された。前者としては「主体性、働きかけ力、ストレスコントロール力」、後者は「傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性」が確認された。3校とも同じ傾向にあったことから、歯科衛生学生は臨床実習において「主体性、働きかけ力、ストレスコントロール力」の能力要素の上昇に影響を及ぼす可能性が示唆された。「主体性」は物事に進んで取り組む力、「働きかけ力」は他人に働きかけ巻き込む力と定義されている(図1)³⁾。「主体性」がなければ、「働きかけ力」も発揮できないことから¹⁴⁾、この2つの能力要素は相互に関連しあって、上昇している可能性が考えられる。また、「ストレスコントロール力」は、ストレスの発生源に対応する力と定

表7 B校における臨床実習前後の社会人基礎力（前に踏み出す力）に関する自己評価-他者評価群の比較
人数（%）

		実習前				
		①	②	③	④	計
実習後	①	9 (29.0%)	3 (13.6%)	3 (15.8%)	4 (21.1%)	19 (20.9%)
	②	7 (22.6%)	5 (22.7%)	3 (15.8%)	2 (10.5%)	17 (18.7%)
	③	7 (22.6%)	4 (18.2%)	9 (47.4%)	5 (26.3%)	25 (27.5%)
	④	8 (25.8%)	10 (45.5%)	4 (21.1%)	8 (42.1%)	30 (33.0%)
	計	31 (100.0%)	22 (100.0%)	19 (100.0%)	19 (100.0%)	91 (100.0%)

実習前①（あるいは②③④）群であった人が、実習後にどの群に変化したのかを示す。

表8 B校における臨床実習前後の社会人基礎力（考え抜く力）に関する自己評価-他者評価群の比較
人数（%）

		実習前				
		①	②	③	④	計
実習後	①	12 (37.5%)	6 (24.0%)	5 (21.7%)	1 (9.1%)	24 (26.4%)
	②	7 (21.9%)	6 (24.0%)	6 (26.1%)	4 (36.4%)	23 (25.3%)
	③	6 (18.8%)	5 (20.0%)	7 (30.4%)	5 (45.5%)	23 (25.3%)
	④	7 (21.9%)	8 (32.0%)	5 (21.7%)	1 (9.1%)	21 (23.1%)
	計	32 (100.0%)	25 (100.0%)	23 (100.0%)	11 (100.0%)	91 (100.0%)

実習前①（あるいは②③④）群であった人が、実習後にどの群に変化したのかを示す。

表9 B校における臨床実習前後の社会人基礎力（チームで働く力）に関する自己評価-他者評価群の比較
人数（%）

		実習前				
		①	②	③	④	計
実習後	①	5 (31.3%)	8 (30.8%)	9 (28.1%)	6 (35.3%)	28 (30.8%)
	②	7 (43.8%)	9 (34.6%)	1 (3.1%)	3 (17.6%)	20 (22.0%)
	③	4 (25.0%)	4 (15.4%)	16 (50.0%)	3 (17.6%)	27 (29.7%)
	④	0 (0.0%)	5 (19.2%)	6 (18.8%)	5 (29.4%)	16 (17.6%)
	計	16 (100.0%)	26 (100.0%)	32 (100.0%)	17 (100.0%)	91 (100.0%)

実習前①（あるいは②③④）群であった人が、実習後にどの群に変化したのかを示す。

義されている（図1）³⁾。臨床実習では、学生が初めて臨床の場に出るため、リアリティショックに遭遇する¹⁵⁾。リアリティショックとは、組織参入前に形成された期待やイメージが組織参入後の現実と異なっていた場合に生じる心理現象で、新人の組織コミットメントや社会化にネガティブな影響を与えるものとされている。組織参入前に自分で得た情報から、その組織や業務に対し何かしらの期待やイメージを持つが、この期待やイメージと現実にギャップが生じた場合、リアリティショックに陥る¹⁶⁾。伊東らは、リアリティショックを低減させると共に、ショックを積極的な学びに変換させるような支援が求められると述べている¹⁷⁾。その具体的方法として佐居らは、臨地実習に必要な要素として、基本的な看護業務、職場の人間関係、さまざまなケアへの対応能力発

達、勤務形態への適応、仕事と自己の価値観の調和、对患者コミュニケーションがあると報告している¹⁸⁾。3校においてリアリティショックを低減させるための具体的な教育プログラムが取り入れられているかは、今後さらに詳細な検討が必要である。伊藤らは臨床実習の経験を通じて一般性自己効力感を上昇させる影響があると報告していることから¹⁹⁾、臨床実習における成功体験によって自己効力感が高まり、ストレスコントロール力の上昇に影響を及ぼしたのではないかと推察した。

経時的な変化を検討するため、さらに詳細に、B校（5か年）の実習中の自己評価を実習前-実習中および実習中-実習後の変化で検討した。3つの能力は実習前-実習中はすべての年度において有意な上昇が認められた（表5）。一方で、実習中-実習後は年度によって有意な

上昇が認められないこともあったことから、社会人基礎力の向上は臨床実習の比較的早期に向上する可能性が示唆された。市川によると実習で高まった可能性のある社会人基礎力が、実習後の時間経過とともに低下することが報告されており²⁰⁾、本研究においても同様の傾向が認められたが、その要因については明らかにされていないので、今後の検討課題としたい。

能力要素について特徴的であったのは、「柔軟性」と「規律性」であった。「柔軟性」は2018年度を除き、実習前-実習中に有意な差が認められず、実習中-実習後に有意な差が認められたことから、柔軟性は実習後期に向上する可能性が示唆された。「柔軟性」は、意見の違いや立場の違いを理解する力とされている(図1)³⁾。実習初期はその環境に慣れるまで、学生個々に余裕がない。相手の立場を理解して、他者を共感し受け入れることは、自分に余裕がない時は容易なことではないと考えられる。他者を受け入れ、物事を多角的に捉えるには少し時間が必要である。実習が進み少し自分を客観的に捉える余裕が出てくる実習中期から徐々に相手を尊重する姿勢が身につくのではないかと推察された。

「規律性」はすべての年度において実習前-実習中に有意な差が認められ、実習中-実習後に有意な差が認められなかった。「規律性」は、社会のルールや人との約束を守る力とされている(図1)³⁾。学生は実習開始前から臨床実習に向けてさまざまな事前指導やオリエンテーションが行われ、その中で実習に臨む姿勢やルール、実習先での規律を学ぶ。社会のルールを再確認し、責任ある行動を取ろうとする姿勢が、実習早期に変化をもたらしたのではないかと推察された。「柔軟性」以外の他の能力要素は経年的にも、実習前-実習中に有意な差が認められることが多く、能力要素ごとに比較しても、臨床実習の比較的早期に向上する可能性が示唆された。

学生本人の自己評価と教員による他者評価の比較検討では、実習前は学生-教員間に大きな差はないが、実習が開始されると、学生-教員間の評価に差が生じていた。つまり、学生は実習を経験することで、社会人基礎力が向上したと自負するのではないかと考えられる。しかし視点を変えると、社会人基礎力向上の目標に対する学生と教員の認識不一致の可能性もある。沖田らは、自己評価と他者評価のズレを認識することで、課題の焦点化が図られること、学生の自己評価傾向を踏まえた教育の有用性を報告している²¹⁾。本研究結果を詳細に検討したところ、自己-他者評価一致群(図6、①と③群)自己-他者評価不一致群(図6、②と④群)に分けられた。この不一致群に対する積極的な教育支援・介入が、ズレの解消とさらに、①群へと導くことができるのではないかと考えられる。例えば、②群には社会人基礎力として何

が必要かを学生自身に考えさせ、他者が求めている視点を伝え、きめ細やかに自身の評価と向き合い、行動を促すような指導を、④群には他者の評価をプラスの行動変容に促し、自己効力感を高めるような指導をすることで、比較的容易に①群へ導くことができる可能性はある。一致群ではあっても③群については、一定のレベルに達するように個別に指導を行う必要があると推察された。

難波らは、技能領域だけでなく、情意領域においても学生が自己の性格傾向を客観的に把握することで、実習効果を上げることが期待できると報告している²²⁾。個別指導を行う際は、学生個々の性格を見極めた上で、指導にあたる必要がある。

一方で、Carlsonらは、面識がない場合は自己評価と他者評価に相関が見られず、付き合いがある人による他者評価と自己評価の相関は高かったと報告している²³⁾。本研究では、学生とのかかわりが比較的多いと考えられる専任教員6名の中から1名を他者評価者に設定し、キャリアプレーションを実施後に評価を実施したが、より客観的な評価を得るため、さらには学生の自己評価の信憑性を高めるために、PROG²⁴⁾などの客観的な評価を導入する必要がある。さまざまなツールを活用して、学生個々に応じた、適切な教育的支援・介入を行い、他者評価をフィードバックして、自己評価とのズレを意識させる必要があると考える。尾田は、社会人基礎力の概念の問題点を挙げ、その改善方法として、職業上の能力に関連する既存概念である、コンピテンシーや職務遂行能力などと関連させる、各職種におけるエントリーレベルの能力に関する定義や標準化を促進させるべきであると報告している²⁵⁾。臨床実習の評価においては、歯科衛生士の独自の専門性を考慮した上で、多職種からの実務に則した評価を活用していくことが今後の課題である。

「ジェネリックスキル」とはどんな時も汎用的に役立つ能力・態度・志向のことであり、世界的に求められている。この概念はリテラシー領域とコンピテンシー領域があり、社会人基礎力はコンピテンシー領域に合致する概念である²⁴⁾。海外と比較すると、わが国ではジェネリックスキルに関する教育は充実していると言い切れず、高等教育における教育カリキュラムの構築が課題となっている。歯科衛生教育は歯科衛生士学校養成所指定規則において臨床実習を履修することが定められており²⁶⁾、臨床実習を通して、歯科衛生士として必要な知識・技術・態度を実践的に学んでいる。今後さらに、これまでの歯科衛生教育から教育の質を向上させるためには、歯科衛生教育に社会人基礎力の概念を取り入れる必要がある。日本学術会議の報告より提示された、「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準

(歯学分野)」の中に、歯学の学びを通じて獲得すべき基本的な能力として、ジェネリックスキルがあげられている²⁷⁾。一方、「歯科衛生学教育コア・カリキュラム—教育内容ガイドライン—2018年度改訂版」に、歯科衛生士に求められる基本的な資質としてジェネリックスキルや社会人基礎力に関する文言はまだ見られない²⁸⁾。今後、歯科衛生教育にジェネリックスキルや社会人基礎力の概念が導入されることで、歯科衛生学生の社会人基礎力の構築に寄与できるのではないかと考える。久保田は、ジェネリックスキルの教育は「知っている」から「できる」への転換を必要とすると報告している²⁹⁾。学生が社会人基礎力の概念を知っているだけでなく、実践(発揮)できるように教員が指導していくことが求められる。各養成校の教員が自校の教育方針や教育カリキュラムの特徴を明確に把握し、自校の強みを自覚した上で、学生の特性を捉え、客観的視点から個々の特性に応じた指導を行っていくことが、より社会人基礎力の向上に効果を示すのではないかと考えた。多様な学生を抱え、これらは教員にとって大きな重責となる可能性がある。しかし、今後の歯科衛生教育の更なる発展のためにも、進めていかなければならない取り組みのひとつであると言える。

本研究の結果より、すべての歯科衛生士養成校において社会人基礎力の3つの能力は、年度に関わらず上昇することが示唆された。先行研究では歯科衛生士養成校1校による検討であったため、対象校の特性などによる影響を受ける可能性も考えられたが、3つの養成校(4年制大学、短期大学、専門学校)で同様の結果が得られたことから、臨床実習の教育方針や教育カリキュラム、実習概要などそれぞれに相違があっても、歯科衛生学生の社会人基礎力の向上に影響を与える可能性は高いと考えられる。

大岡らは社会人基礎力を高める要因として、職業キャリアの成熟や自尊感情が関連しており、自尊感情を高めるような指導を行うことは、社会人基礎力の向上に効果を示す可能性について報告している³⁰⁾。社会人基礎力を高めるためには、学生ができるようになったこと、自信をつけた事柄を褒めるだけでなく、どのような行動が良い結果に繋がったのかを教員と一緒に考え、学生の行いや考え方を認めることが、自尊感情をさらに高めると推察できる。

以上のことから、臨床実習では学生自身が患者と対面し、患者に認められる体験や、多職種連携における多岐にわたる経験を通じて、医療専門職としてのモチベーションや意識が高まり、その結果が社会人基礎力の向上に繋がったのではないかと推察できる。臨床実習では成功体験ばかりでなく、失敗体験を経験することも有り得

る。成功体験と失敗体験を繰り返しながら、何が良かったのか、次に何を活かすべきかなどの自身の行動や考えを振り返ることが、社会人基礎力の向上に更なる影響を及ぼすと考える。現在、看護教育では学生教育だけでなく、新人の教育現場や、中堅層のスキルアップ教育、超高齢化社会など社会環境の変化に対応するための概念として積極的に応用されている³¹⁾。高橋は看護師として実践能力を高め、現場で効果的に発揮するためにも、社会人基礎力は重要な要素であると述べている³²⁾。歯科衛生士は看護師と同じ医療専門職であることから、これらを参考に、歯科衛生教育においても国民のニーズに対応できる歯科衛生士養成のために、その基礎となる臨床実習の場で社会人基礎力を向上するカリキュラムが構築され、応用することが、さらに歯科衛生士全体の発展に繋がると考える。

結 論

社会人基礎力は臨床実習の比較的早期に向上し、臨床実習は社会人基礎力の有機的かつ多面的な育成に有効である可能性が示唆された。今後歯科衛生教育のさまざまな場面に、社会人基礎力の概念が積極的に応用されることが、歯科衛生士全体の発展に繋がると考える。

利益相反の開示

本研究結果の開示に際して、開示すべき利益相反はありません。

稿を終えるにあたり、調査にご協力いただいた歯科衛生士養成校の先生方、各養成校の学生の皆様ならびに関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

文 献

- 1) 厚生労働省：歯科医療提供体制等に関する検討会。
https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/other-isei_127375_00006.html (2022年11月30日アクセス)
- 2) 内閣府：経済財政運営と改革の基本方針2022。
https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/cabinet/2022/2022_basicpolicies_ja.pdf (2022年9月15日アクセス)。
- 3) 経済産業省：社会人基礎力(METI/経済産業省)。
<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.htm> (2017年4月20日アクセス)。
- 4) 経済産業省産業人材政策室：人生100年時代の社会人基礎力について。
https://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/sansei/jinzairyoku/jinzaizou_wg/pdf/007_06_00.pdf (2019年10月30日アクセス)。
- 5) 一般社団法人社会人基礎力協議会：人生100年時代の

- 社会人基礎力 -Life Shift-. <https://biz100.org/> (2022年9月15日アクセス).
- 6) 星 千枝, 鈴木尚子: BERD つなぐ, 研究と実践. 生み出す, 新しい教育. ベネッセコーポレーション Benesse 教育研究開発センター, 東京, 16, 48-56, 2009.
 - 7) 古賀 恵, 永田英樹, 大岡知子ほか: 本学歯科衛生学科生の社会人基礎力育成に対する臨床実習の効果. 関西女子短期大学紀要, 28: 33-38, 2018.
 - 8) 古賀 恵, 小正 裕, 神光一郎ほか: 歯科衛生士学生の社会人基礎力に対する臨床実習の効果. 日衛教育誌, 11, 105-115, 2020.
 - 9) 松谷信也, 木村まりこ, 玉利 誠ほか: 1年次の見学実習が社会人基礎力に及ぼす影響—作業療法学科学生を対象とした検討—. 柳川リハ学院・福岡国際医療福祉学院紀, 11: 24-27, 2015.
 - 10) 藤島淑恵, 梶田鈴子: 社会人基礎力でみるインターンシップの効果と課題—短期大学生の場合—. 中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要, 49: 149-158, 2017.
 - 11) 市川裕美子, 山野内靖子: 看護学生の社会人基礎力の学年別自己評価と変化. 八戸学院大学紀要, 56: 161-166, 2018.
 - 12) 藪田素子, 安藤恵子: 看護基礎教育における社会人基礎力の学年別実態. 医療の広場, 57(5): 24-29, 2017.
 - 13) 奥田玲子, 深田美香: 看護学生の社会人基礎力の経年的変化と影響を及ぼす経験要因. 米子医誌, 70: 13-24, 2019.
 - 14) 箕浦とき子, 高橋 恵: 看護職としての社会人基礎力の育て方—専門性の発揮を支える3つの能力・12の能力要素—第2版. 日本看護協会出版会, 東京, 226, 2016.
 - 15) 高橋 恵: リアリティショックを乗り越えるために社会人基礎力の育成を. 日本看護協会機関誌, 73, 70-75, 2021.
 - 16) 伊東昌子, 渡辺めぐみ: 職場学習の心理学 知識の獲得から役割の開拓へ. 勁草書房, 東京, 5, 2020.
 - 17) 伊東昌子, 渡辺めぐみ: 職場学習の心理学 知識の獲得から役割の開拓へ. 勁草書房, 東京, 7, 2020.
 - 18) 佐居由美, 松谷美和子, 平林優子ほか: 新卒看護師のリアリティショックの構造と教育プログラムのあり方. 聖路加看護学会誌, 11, 100-108, 2007.
 - 19) 伊藤早希, 俣木志朗, 吉田直美ほか: 歯科衛生士の臨床実習前後における自己効力感の変化. 日衛教育誌, 6: 128-136, 2015.
 - 20) 市川裕美子: 看護学生の实習前後における社会人基礎力の自己評価. 八戸短期大学紀要, 41: 39-49, 2015.
 - 21) 沖田聖枝, 岡田淳子, 阪本みどりほか: 学生の自己評価および教員による他者評価を取り入れた看護技術の教育方法の検討. 川崎医療短期大学紀要, 24, 31-36, 2004.
 - 22) 難波哲子, 山下 力, 田淵昭雄: 臨地実習指導者評価と学生の「自己客観的評価」との相関性. 日視能訓練士協誌, 38: 313-319, 2009.
 - 23) Carlson EN, Vazire S, Furr RM: Meta-insight: Do people really know how others see them?. Journal of Personality and Social Psychology, 101, 831-846, 2011.
 - 24) 大学教育におけるジェネリックスキル開発支援プログラム PROG <https://pickandmix.co.jp/prog/> (2022年9月15日アクセス)
 - 25) 尾田 基: 経済産業省「社会人基礎力」概念の批判的検討. 國學院大學教育開発推進機構紀要, 13: 1-13, 2022.
 - 26) 歯科衛生士学校養成所指定規則—e-Gov 法令検索 <https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=325M50000180001> (2022年9月27日アクセス)
 - 27) 大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 (歯学分野). <https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-23-h170929-8.pdf> (2022年9月27日アクセス)
 - 28) 歯科衛生学教育コア・カリキュラム—教育内容ガイドライン—2018年度改訂版. https://www.kokuhoken.or.jp/zen-eiky/publicity/file/core_curriculum_2018.pdf (2022年9月27日アクセス)
 - 29) 久保田祐歌: 大学におけるジェネリック・スキル教育の意義と課題. 愛知教育大学教育創造開発機構紀要, 3: 63-70, 2013.
 - 30) 大岡裕子, 吉永純子, 鈴木英子: 大学病院に勤務する看護師の社会人基礎力に関連する要因の分析. 日看護管理会誌, 21, 87-97, 2017.
 - 31) 西村路子: 臨床現場における社会人基礎力育成の取り組み. 日本看護協会機関誌, 72, 81-84, 2020.
 - 32) 高橋 恵: 看護師育成に生かす「社会人基礎力」の考え方. 日本看護協会機関誌, 72, 75-80, 2020.